

御前山ピオトープ周辺の植物等

山地の林内に生える多年草です。葉は深く裂け、これでもスミレかと思うほどです。花が終わると葉は長さ幅ともに見違えるほど大きくなります。花は4～5月頃に咲き、淡い紅紫色が普通ですが、紅色の強いものや白色に近いものなど変化があります。エイザンスミレの名は、江戸時代の末期頃に京都に近い比叡山（ひえいざん）で最初に見つかったからという説があります。



エイザンスミレ

(スミレ科)

(写真・データ提供 御前山ダム環境センター)

みんなで応援しよう！ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

研修生編



▲当時着たユニフォームを背に話す益子さん

ホストタウン交流計画の一環として、パラオ共和国研修生がオリンピックに向けて本市とパラオとの更なる友好交流事業を企画するため、1964(昭和39)年東京大会の聖火リレー走者に当時の様子などをインタビューしました。

この取材に協力していただいたのは、益子忠一

さん(下檜沢在住)。益子さんは、56年前の1964(昭和39)年10月4日、美和村教育委員会(当時)から推薦され、副走者として水戸市内1.2kmの聖火リレーに参加されました。

シェナさん：どこを何人で走りましたか？

益子さん：水戸市内で、水戸一商前(現：水戸啓明高等学校)から千波十字までの区間です。私は副走者だったので、正走者が何かあったときに助ける役目でした。メンバーは、美和村青年会7人のほか水戸市内高校の生徒たち、合わせて23人で走りました。

シェナさん：聖火ランナーとして走っているときの気持ちを教えてください。

益子さん：沿道に子供から大人まで大勢の人が、日本の手旗を振りながら応援してくれました。とても誇らしい気持ちで、走り終えたときは、大きな役目を果

たして「ほっ」としたことを記憶しています。

ケネリーさん：新型コロナウイルス感染症の影響で、東京2020大会の聖火リレーは一旦中止となり、大会も来年に延期となりましたが、東京2020大会に向けた思いなどをお聞かせください。

益子さん：報道を聞いて残念でしたが、世界200か国を超える選手や人々が安全・安心に東京に集うことを願い、みんなが楽しく夢中に、そして盛り上がるオリンピックとなることを期待しています。

ケネリーさん：本市はパラオのホストタウンです。パラオの選手にメッセージをお願いします。

益子さん：東京2020大会では、パラオの選手からメダリストが生まれるよう応援しています。頑張ってください！



▲熱心にインタビューする研修生



▲聖火リレー参加者記念バッチ(1964年)

常陸大宮市の人口

(4月1日現在・推定常住者)

総人口 39,512人 世帯数 16,061世帯
(男 19,507人 女 20,005人)



広報 常陸大宮 4月 第187号

発行日 令和2年4月27日

発行/常陸大宮市 編集/秘書広聴課

〒319-2292 茨城県常陸大宮市中富町3135-6

TEL 0295(52)1111 FAX 0295(53)6010

E-mail hishokou@city.hitachiomiya.lg.jp

URL <http://www.city.hitachiomiya.lg.jp/>

